

機 関	主 要 活 動 項 目
内 閣 府 原 子 力 規 制 庁 泊 原 子 力 規 制 事 務 所 北 海 道 関 係 1 3 町 村 防 災 関 係 機 関 原 子 力 事 業 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ オフサイトセンターへの要員参集（道、13町村、国の機関等）</li> <li>□ 各機能班を設置し、事故の状況や防災関係機関の対応状況を収集・整理</li> <li>□ スクリーン表示するなど各機能班相互の情報共有</li> <li>□ 複合災害を想定した防災関係機関との対応の調整</li> <li>□ 現地事故対策連絡会議（EAL(SE)段階）や原子力災害合同対策協議会（EAL(GE)段階）を開催</li> <li>□ TV会議を開催し、防護措置の実施方針を確認・調整</li> </ul>

<OFC 参集者への指示>



<OFC 機能班班長会議>



<OFC 総括班の活動>



<現地事故対策連絡会議>



<実施方針の作成>



<OFC スクリーンを活用した情報共有>



<原子力災害合同対策協議会>



<OFC 実動対処班の活動>



## (2) 災害対策本部等運営訓練

災害対策本部を設置し、事態の推移に応じて本部員会議やTV会議を開催し、本部内や防災関係機関と情報共有を図った。

機 関	主 要 活 動 項 目
北 海 道	<本庁> <input type="checkbox"/> 道災害対策本部の設置・運営。道本部員会議ほか各種テレビ会議を開催 <input type="checkbox"/> 北海道危機管理センターにおける指揮室の運営 (北海道バス協会から指揮室にバス運行調整役のリエゾンを派遣) <オフサイトセンター> <input type="checkbox"/> 道現地災害対策本部を設置・運営
関 係 1 3 町 村	<input type="checkbox"/> オフサイトセンターからの照会等への対応や各種TV会議への参加
原 子 力 事 業 者	<input type="checkbox"/> 本店及び泊発電所に原子力災害対策本部を設置・運営

<指揮室内でのOFCとの連絡調整>



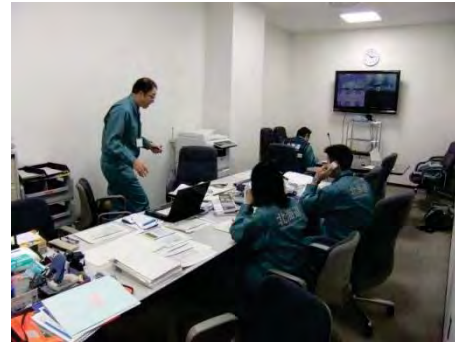
<指揮室内での班長会議>



<北海道災害対策本部員会議>



<OFC内の道現地本部の活動>



## (3) 緊急時通信連絡訓練

各種通信手段を用いた事故状況や対応状況等に関する防災関係機関相互の通報連絡及び関係機関への情報伝達を実施した。

機 関	主 要 活 動 項 目
全 機 関	<input type="checkbox"/> 電話、FAX（一般回線や専用回線）、防災行政無線を用いた防災関係機関相互の通報連絡 <input type="checkbox"/> 北海道バス協会、バス事業者と連携した避難バス確保に向けた通信連絡 <input type="checkbox"/> 避難先自治体等への事故状況の伝達や避難受入要請

#### (4) 緊急時環境放射線モニタリング訓練

道による緊急時モニタリングを経て、国が緊急時モニタリングセンター（EMC）を設置し、国、道、関係13町村、原子力事業者と連携して、緊急時における環境放射線のモニタリング活動をした。

機 関	主 要 活 動 項 目
泊原子力規制事務所 北 海 道 関 係 1 3 町 村 原 子 力 事 業 者	<input type="checkbox"/> 道による緊急時モニタリング及び国によるEMC立上げ準備への協力 <input type="checkbox"/> EMCを拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携 <input type="checkbox"/> 緊急時モニタリング実施内容の検討（実施計画案の修正）、指示及び情報伝達 <input type="checkbox"/> 緊急時モニタリング情報共有システム等によるモニタリング情報の収集、整理、確認及び報告 <input type="checkbox"/> OFC放射線班等への緊急時モニタリング結果の提供及び情報共有

<EMC 立ち上げ準備への協力>



<緊急時モニタリング実施内容の検討>



#### (5) 広報訓練

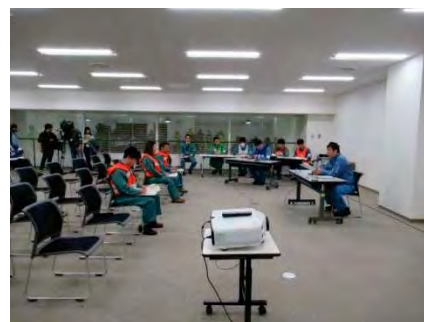
事故状況や防護措置の実施状況を取りまとめ、報道提供資料の作成や模擬記者会見を実施した。

機 関	主 要 活 動 項 目
北 海 道 防 災 関 係 機 関	<input type="checkbox"/> OFC広報班による報道発表資料（案）の作成 <input type="checkbox"/> OFCプレスルームにおける模擬記者会見の実施

<OFC 広報班による報道発表資料（案）の作成>



<模擬記者会見の様子>



#### (6) その他

<ゲート型モニターによる車両検査訓練>

平成29年度北海道原子力防災訓練（平成30年2月8日実施）の避難区域時検査において、凍結路面での車両検査に時間を要したことを踏まえ、オフサイトセンターの駐車場において、冬季のゲート型モニターによる車両検査の改善した手順を確認した。

<防滑対策を行ったゲート型モニターによる車両検査>



訓練の流れ(2月4日)

		8:00 地震発生 (警戒事態)	9:00	10:00 10分通報	11:00	12:00	13:00	14:00 15分通報	15:00	16:00
主要な事態の推移	地震災害状況 (後志地方)	泊村で直下型地震発生 (警戒事態) 泊村:震度6弱	地震による被害状況(人的被害・家屋被害・ライフライン等)は時間の経過に伴い少しずつ判明							
	気象状況 (後志地方)	訓練当日の天候状況で訓練実施								
	原子力災害 (泊発電所3号機)	警戒事態	施設敷地緊急事態							
	規制委員会・ 内閣府原子力防災 【仮想】	自動停止	非常用炉心冷却装置の作動	非常用炉心冷却装置による一部注水不能						
	国からの要請/指示	要請 避難準備の確立等	OPAZ内 要避難者は 避難準備 避難要請	OPAZ内要避難者は 避難準備 OPAZ内住民は 避難準備 OPAZ内住民は 屋内退避準備						
道の体制 (注)	要請 原子力災害本部設置 (原子力災害要請字!)	泊村会議(ERC)進行 (泊村共和)【ERC】	泊村会議(ERC)進行 (泊村共和)							
現地の体制	OFC(EMC) (注)	原子力事故合同 現地警戒本部	原子力事故合同 現地対策本部							
現地の体制	国現地本部(OFC)の 機能發揮状況	【ERC】 【道庁】 【OFC】	【現地(警戒)本部】 【OFC】	【現地(警戒)本部】 【OFC】	13:00頃:国要員(副大臣など)到着予定 ※到着した要員から機能班活動に参加					
	道現地本部(OFC)の 機能發揮状況	【道庁】 ※現地警戒本部(OFC)の 機能發揮状況	【現地警戒本部(OFC)】 ※後志総合振興局等の要員 の到着により機能發揮	【現地本部(OFC)】 ※副知事(現地本部長)等の到着により機能發揮 ※隠居での移動の場合、副知事の到着は12:30頃						
住民避難の動き	PAZ	PAZ内要避難者 避難準備	PAZ内住民 避難準備							
	UPZ	UPZ内一時滞在者(移動手段あり) UPZ内一時滞在者(移動手段なし)	UPZ内住民 屋内退避準備							
			避難 屋内退避準備	避難 屋内退避						
自然災害による主な道路状況		地震により一部道路が通行止め								

(注) 本部長会議やOFC内での会議時間は訓練の中で決定されるため、流動的であることにご注意ください。

### 第3 課題等整理表（関係機関等事後調査結果）

#### 1 総合訓練：平成30年10月22日実施

##### （1）訓練全般に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○OFCに訓練状況を説明できるスタッフが配置されており、参観者に説明・案内していたことから、参観者にもわかりやすい訓練となっていた。	引き続き、スタッフを配置するなど、参観者に訓練状況がわかるよう、対応を工夫する。
○意思決定訓練と実動訓練を同日に実施したことで、一連の流れが理解できた。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の理解を深めていく。
●事前想定との把握は非常に重要な事項であるが、事前説明・状況把握の時間が短く、状況把握に苦慮した。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。
●原子力災害・原子力防災に係る専門用語や略語が分からないので、用語集等があれば良いと感じた。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の理解を深めていく。
●ERC役コントローラは国の職員など国の動きを分かっている人間が行うべきである。	引き続き、国に訓練への支援を要請し、実際に近い形での訓練となるよう努める。
●シナリオ訓練では、要員の対応力向上という点での課題が把握しにくいので、ブラインド方式による訓練を実施した方が良いのではないかと。	今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。（冬季要素訓練において、ブラインド方式による訓練を実施。）
●今回の訓練で想定とした部分（例えば放射性物質放出からOIL2の区域特定まで）の訓練を実施した方が良いのではないかと。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、対応を検討する。
●意思決定と実動を同日に行うのであれば、もう少し意思決定と実動をリンクさせる部分が多くても良いのではないかと。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、対応を検討する。
●意思決定と実動を同日に実施したことで、OFC要員が実動訓練スタッフとして対応せざるをえないなど、要員の確保に苦慮した。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。

##### （2）災害対策本部等設置運営訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●OFCの問い合わせ先として、各町村に直接問い合わせる方が、町村の本部運営訓練としても、良い訓練になるのではないかと。	冬季要素訓練において、OFCから直接町村に問い合わせをする訓練を実施。今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。

##### （3）OFC運営訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○住民安全班のブースに気象担当専用の場所と端末が用意されたので、気象状況の常時監視や情報提供を適切に実施することができた。	引き続き、住民安全班のブースに気象担当専用の場所と端末を用意する。

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
○訓練開始直後に、機能班班長による班長会議を実施しており、適切に情報共有されていた。その後の情報共有等の中でも積極的に班長会議等を活用するとなお良いと感じた。	今後も班長会議を積極的に活用していく。(冬季要素訓練において、班長会議による情報共有を積極的に実施した。)
○第4回合同対策協議会は、各機能班が現場で情報を収集し、資料を作成しており、現実味のある訓練となっていた。	今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。(冬季要素訓練において、ブラインド方式による訓練を実施。)
●訓練参加者に対してOFCの目的や機能を説明した方が良いのではないかと。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の理解を深めていく。
●パソコンの台数が限られており、一部の班員に業務が集中した。	班員の役割分担について、関係機関と協議し、検討するとともに、今後のシステム更新等に合わせ、各機能班等のパソコンを増やすよう、引き続き、原子力規制庁に要望していく。
●OFCのパソコンが国のものと道のものがあり、道のパソコンの用途がわからない。また、道のパソコンからOFCのフォルダ等にアクセスできない。	今後のシステム更新等に合わせ、道のパソコンと国のパソコンを接続できるよう、引き続き、原子力規制庁に要望していく。
●経験が浅い職員だと何をすれば良いかわからず指示待ちのような状態になってしまっているため、事前に予習させる等の仕組みがあると良いのではないかと。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●研修を受けていない要員には、機器の操作方法がわからない要員もいたため、そういう要員が参集した場合の対応(基本的な機器の操作マニュアル等)も想定した方が良いのではないかと。	各機能班の机の上に機器の操作マニュアル等を常備しているため、有事の際に活用できるよう、研修会や訓練等を通じて、周知していく。
●OFC内の情報共有方法や情報伝達のルート等について、事前にマニュアル化しておくなど、決めておくべきではないかと。	泊規制事務所に運営要領を見直し、OFC内の情報共有等について明確化するよう求める。
●活動初期段階において、活動情報システムの取扱いに苦労し、各機能班への情報共有が遅れた。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●住民安全班の人数が他の班と比べ多すぎ、統制が取れていない。	住民安全班は住民の防護措置の調整、取りまとめを行うとともに、その実施状況の把握などの業務を行うため、他の班と比べ、人数が多く配置されているところであるが、今後、泊規制事務所と協議し、班内の役割分担の明確化を図る。
●現在、住民安全班に配置されている道警からの要員について、迅速な実動対応の観点から、実動対処班に配置換えしてほしい。	OFC 参集要員の配置について、今後、泊規制事務所と協議し、検討していく。
●機能班内の役割が明確になっていないため、誰が何をすれば良いか混乱している時間帯があった。機能班内の役割は、各所属の業務に合わせるなど、ある程度固定した方が良いのではないかと。	泊規制事務所と協議し、班内の役割分担について明確化を図るとともに、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●情報管理責任者の負担が過重になっている班があった。副班長と役割分担するなど適切な役割分担が必要と感じた。	班内の役割分担等については班長の権限であり、今後の訓練等で改善に努める。
●派遣要員の役割分担はホワイトボードに掲示するなど「見える化」することで、より班員が意識できて良いのではないかと。	今後、班内の役割分担を掲示するなど、対応を検討する。
●国の訓練では、各機能班は機能班マニュアルに基づいて実施されているが、本訓練においては使用されていなかった。	国に機能班マニュアルの周知を求めるとともに引き続き、研修会や訓練等を通じて、国の機能班運営の考え方等の周知に努めていく。

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●主要活動ボードの記入の仕方に一定のルールがなく、一貫性がなかった。	今後の研修会等を通じて各機能班で主要活動ボードの活用法について検討していく。
●実際の班長は国の要員となることから、連携に不安が残る。	引き続き、国に訓練への支援を要請するとともに、研修会や訓練等を通じて、国の機能班運営の考え方等の周知に努めていく。
●発電所事故の事態進展の周知について、総括班とプラントチームのどちらが主導で行うべきかの整理されておらず、混乱が生じた。	泊規制事務所に運営要領を見直し、OFC内の情報共有等について明確化するよう求める。
●道路の通行止め情報に地図が添付されずに共有されたため、通行止め箇所の把握に時間を要した。	実効的な情報共有ができるよう、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●手が空いている要員がいたが、他の人の業務を手伝う等の指示・対応ができなかった。	引き続き、研修や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。（冬季要素訓練では、要員が足りていない班を他の班員が支援する活動が見られた。）
●原子力災害時の問い合わせ想定（Q & A）について、毎回ゼロから作成するのではなく、過去の訓練等で作成したものをベースに更新していく方が効果的である。	関係機関と調整のうえ、適切に対応する。
●午前中の活動について、会議と会議の間の時間が短く、会議開催回数も多かったので、会議対応中心の機能班活動となってしまった部分があった。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。
●広報班に対する付与が不足していたので、例えば、SE、GE 事象を公表した直後に問合せが殺到するなどの付与を入れれば、より実効的な活動となるのではないか。	より実効的な訓練になるよう、OFC 機能班への状況付与等を充実させるなど検討していく。
●訓練のたびに業務や役割を把握するのに苦慮するので、連絡員の役割を明確にしてほしい。	町村・関係機関の連絡員は、各所属とOFCの機能班等との連絡調整のために派遣することができるものとされている。訓練では、連絡員の対応力向上に繋がるような内容を検討する。
●訓練開始時に要員参集報告を行う際に、参集者の人数を報告していない班が散見された。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の理解を深めていく。
●実動の現場を知っている実動機関の職員をコントロールに入れた方がより良い訓練になるのではないかな。	今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。（冬季要素訓練において、コントロールに実動機関の職員を配置。）
●機能班同士の連携に加え、ERCとの連携をもう少し意識できれば、さらに良い活動になると考える。	ERCとの連携を意識させる状況付与を充実させるなど、より実効的な訓練になるよう、検討していく。
●昼食（非常食）の準備に時間が掛かり、運営支援班の他の活動に支障をきたした。	関係機関と協議し、訓練における昼食の摂りかたについて検討する。（冬季要素訓練では、各自昼食を持参。）
●OFC全体会議室の中央にある地図上のマップに付箋が貼ってあるものがあったが、小さくて読み取れず、活用されていなかった。	研修会や訓練等を通じて、実効的な情報共有ができるよう、努めていく。
●実動対処班に福祉車両1台の手配要請があったが、救急車等で対応可能な範囲であり、実動対処班に要請する内容として現実的ではなかった。	OFC 機能班への状況付与等を充実させるなど、より実効的な訓練になるよう、検討していく。

#### (4) 緊急時通信連絡訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
●活動情報システムが次々と更新されるため、必要な情報を採すのに時間と手間がかかる。	活動情報システムの活用について、関係機関と協議し、対応していく。

#### (5) 緊急時環境放射線モニタリング訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
●EMCからの評価報にデータ評価がなかった。異常があるかどうかはひと目でわかった方が良い。	関係機関と調整のうえ、わかりやすい記載となるよう検討する。
●モニタリング指示書等を13町村にFAXするのに時間がかかった。	モニタリング指示音の内容等の簡略化を検討していく。
●EMCでは情報共有システムが閲覧できない。EMCでもOFCや自治体間で共有されている情報が閲覧できるようにすべきである。	今後の国のシステム更新により、EMCでも情報共有システムが閲覧可能となる予定。
●OFC1階の計測室等や原子力環境センター札幌分室とEMCとの情報共有方法が効率的でない。	効率的な情報共有ができるよう、関係機関と協議し、検討する。
●車両の養生について、最低限やる場所等を示しているものがあると良い。	写真で具体例を示すなど、要員がわかりやすく作業できるよう検討する。
●モニタリング要員の汚染検査について、記録シートの記入方法等がわからなかった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、周知に努めていく。
●更衣室から被ばく管理室への入室について、一人ずつ入室せず3人同時に入室していた。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、周知に努めていく。
●海上保安本部の巡視船等を活用した海上モニタリング支援訓練が必要ではないか。	国において適切に海上モニタリングを実施するよう求めていく。

#### (6) 広報訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
●広報車による広報ルートが重複した。	各町村において関係機関と調整のうえ、広報車ごとのルートを事前に決めておくなど、効率的な広報について検討していく。
●住民から、広報車の放送内容が聞き取れないという指摘があった。	広報車による効果的な放送方法（広報車の速度、広報文の読み上げのスピードなど）について検討していく。
●日本語のエリアメールにも英語で訓練（THIS IS JUST A TEST）と併記するなど、外国人でもはじめてから訓練と分かる記載があった方が良い。	関係機関と協議し、対応を検討していく。



## (7) 住民避難訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
○事前に避難元自治体と避難先自治体で意見交換会を実施したことにより、訓練時も円滑なコミュニケーションが取れ、一時滞在場所の設置・運営がスムーズに行われた。	引き続き、避難元自治体と避難先自治体の意見交換会を実施するなど、平常時からの連携に努める。
○一時滞在場所の運営等について、関係振興局の職員による支援を試行的に実施したが、有事の際の対応を考えると非常に効果的な訓練となった。	引き続き、関係振興局の職員による一時滞在場所等の支援等について検討するとともに、研修会や訓練等を通じて、振興局職員の原子力防災に係る対応力向上にも努めていく。
○避難バスに乗車する役場職員は住民と接する時間が長く、住民への対応も直接生じるため、役場からの情報提供が重要である。今回の訓練で役場とバス車内での情報共有ができたことは有意義であった。	役場とバス車内での情報共有について、共有すべき情報や情報共有のための手段等について、引き続き検討していく。
●ブラックアウトの時のように、使用できる電気が限られる事態を想定し、日頃から、マニュアルや名簿等を印刷し準備しておく必要を感じた。	日頃から必要な資料は紙媒体で準備し、一括保管するなど、適切に対応していく。
●自然災害発生時には道路が通行止めとなる可能性があるため、道路管理者との連携が重要となる。	引き続き、道路管理者や関係機関等と協議し、連携に努めていく。
●参加されている住民は高齢の方が多い。各年齢層の幅広い参加がある方が効果的だと思われる。	小中学校の積極的な参加を促すなど、幅広い年齢層の方に参加いただけるよう住民への広報を実施していく。
●住民を海路で避難させる訓練について、住民の海路避難の実効性について検討すべき（泊周辺には大型巡視船が入港できる港がない。）。	引き続き、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●孤立住民を想定した実動機関による住民避難について、冬季の場合を想定する必要がある。	引き続き、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●外国人観光客等避難誘導訓練において、外国人からの質問に対して的確に回答できない場面が見られた。	訓練を踏まえ、観光施設担当者向けの初動対応マニュアルの内容を見直すとともに、研修会等を通じて、マニュアルの周知に努めるとともに、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●外国人観光客等避難誘導訓練において、ボイストラやメガホンヤクといった機器の検証が適切になされていた。ただし、メガホンヤクについては、各ホテルに配備されているものではないので、今後の対応を含め、検討する必要がある。	研修会等を通じて、観光施設担当者向けの初動対応マニュアルの周知に努めるとともに、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●外国人観光客等避難誘導訓練において、定型的な内容も重要ではあるが、ホテルからの説明内容をより実践的な方向に近づけていくことも必要と感じた。	研修会等を通じて、観光施設担当者向けの初動対応マニュアルの周知に努めるとともに、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●外国人観光客等避難誘導訓練において、訓練ではバスにより避難する方々のみへの説明だったが、実際にはレンタカーや公共交通機関による旅行者もいるので、訓練でも説明すべきと考える。	研修会等を通じて、観光施設担当者向けの初動対応マニュアルの周知に努めるとともに、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●外国人観光客等避難誘導訓練において、避難について記載した資料や地図は訓練企画側で用意したものであったため、実際に施設にあるもので対応しなければならぬという点は課題。	訓練を踏まえ、観光施設担当者向けの初動対応マニュアルの内容を見直すとともに、研修会等を通じて、マニュアルの周知に努めるとともに、関係機関と協議し、対応を検討していく。

## (8) 原子力災害医療活動訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
●安定ヨウ素剤の配布に係るチェックシートやQ & Aが一般の方にはわかりにくいのではないかな。	チェックシートなどについて、関係機関と協議し、改善を検討していく。
●安定ヨウ素剤の配布について、発災時には十分な人員確保ができない可能性もあるため、誰が従事しても一定の対応ができる資料が必要ではないかな。	配布担当者の確保を含め、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●今回の安定ヨウ素剤の配布訓練では丸剤のみの配布であったが、乳児用のゼリー剤も用意してほしい。	関係機関と協議し、乳幼児ゼリー剤についても対応を検討していく。
●安定ヨウ素剤に係る問診アンケートについて、用紙が複数枚あり、その都度名前等を記載しなければならず手間がかかっていた。	関係機関と協議し、負担の少ない方法等を検討していく。
●バスの車内で安定ヨウ素剤の配布を実施したが、疑義が生じた場合の医師等への確認方法について、整理・訓練が必要と感じた。	関係機関と協議し、説明者の問い合わせ先を記入するなど対応を検討していく。
●安定ヨウ素剤の配布について、実際の形等に関する質問があったので、見本(実物)や写真等を用意しておいた方がよい。	関係機関と協議し、見本や写真等を用意するなど、対応を検討していく。
●避難退域時検査については意思決定訓練との連動がほとんどなかったため、検査開始の連絡や途中の状況報告など意思決定訓練と連動した訓練があっても良かったのではないかな。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。
●避難退域時検査時に着用するゴーグルについて、着用方法をしっかり事前に教える機会を設けるべき。また、ゴーグルについては、検査時に曇ってしまい、対応に苦慮した。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、資機材の適切な使用方法の周知に努めていく。
●避難退域時検査について、車両の運転手がどう進行すべきか迷っている場面が見られたため、誘導担当者を十分に置くか看板等によりしっかり動線を設定した方がよいのではないかな。	関係機関と協議し、適切に対応していく。
●避難退域時検査の車両の通過証を予め用意しておくことにより車両検査がスムーズになった。車両登録票の記載については、もっと見た目にわかりやすい内容とした方がよいのではないかな。	関係機関と協議し、車両登録票の内容等について対応を検討していく。
●避難退域時検査について、訓練の時間に対し、対象となる車両数が少ないため、台数を増やせば、より実態に近い訓練となるのではないかな。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。
●避難退域時検査について、車両の除染の間、バス車内の住民に対して状況等の説明がなかったため、住民の安心のためにも状況説明等をした方がよいと感じた。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。
●避難退域時検査の車両除染後の汚染水については、傾斜を利用し適切に対応されていたが、平らな検査場などの場合、汚染水を回収できる工夫が必要。	関係機関と協議し、実効的な車両の除染方法を検討していく。
●避難退域時検査の車両検査について、福祉車両、救急車、重機(道路啓開や除雪対応)等の検査についても検討が必要。	関係機関と協議し、適切に対応していく。
●避難退域時検査の住民検査について、基準値以上の場合は、見た目ですぐわかる様式とした方がよいのではないかな。	関係機関と協議し、様式の改善を検討していく。

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●避難退域時検査の住民検査について、場内のレイアウトや順路の掲示が必要。また、手荷物やペットの対応も検討が必要。	関係機関と協議し、今後の訓練において対応を検討する。
●避難退域時検査の住民検査について、検査を待っている住民が椅子を順々に移っているが、汚染者がいた場合、汚染を拡大させてしまうのではないか。	住民待機場所について、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●被災地住民登録票に記載する際、手が汚染されている住民がいた場合、そのファイルやペンも汚染されるおそれがある。	記載方法などについて、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●避難退域時検査の住民検査において、足の裏を検査する際には、手すり等があった方が良いのではないか。	関係機関と協議し、対応を検討していく。
●被ばく傷病者の受入要請の要請先が通常とは違う部署に入ったため、搬送や通報の手順を整理・確認する必要性を感じた。	搬送や通報の手順を整理するとともに、関係者でその内容を確認・共有する。
●被ばく傷病者の受入に係る院内の養生について、事務職員が行えるようにしておく必要がある。	受入機関において院内研修の実施など、有事の際の対応について検討していく。
●被ばく傷病者の搬送訓練について、パッキング後は受傷部の観察ができないため、受傷程度や処置内容について、より詳細な引継が必要だと感じた。	引継内容について、関係機関と協議し、対応を検討していく。

## （９）その他訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●防護服を着用した職員が携帯電話を使用することは困難。	今後、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●道路啓開訓練について、実際に即した通信連絡を実施しても良いのではないか。	より実効的な訓練となるよう、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●車両中継ポイント運営訓練について、資機材の使用方法を説明する必要があるが、普段から原子力防災に携わっている職員を割り当てられるのか検討が必要。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、資機材の適切な使用方法の周知に努めていく。

## 2 冬季要素訓練：平成31年2月4日実施

### (1) 訓練全般に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○初動からの訓練だったので、参集における時間的尺度や各要員の参集具合等が分かって有意義だった。	今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。
○実施方針（案）のひな形があったので、作業しやすかった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、周知に努めていく。
●地震を想定した訓練ということであれば、余震発生等の事象を付与した方が良いのではないか。	より実効的な訓練になるよう、意思決定訓練における状況付与等の充実について検討していく。
●全面緊急事態の実施方針について、今回の訓練ではひな形を作成し、それを元に実際の状況に応じた実施方針（案）を作成する取組が行われたが、OFC要員や自治体担当者がひな形を完成版と勘違いしている状況が見られた。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、実施方針（案）の作成・確認に係る手順について、各要員の理解に努めていく。
●住民避難のタイミングで暴風雪警報が発表されており、原子力災害合同対策協議会全体会議で状況に応じた検討がなされたことは良かったが、本来は実施方針（案）策定時に検討しておくべきだった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、実施方針（案）の作成・確認に係る手順について、各要員の理解に努めていく。

### (2) OFC運営訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○参集要員が足りない班について、他の班の要員に一時的に支援させるなどなど、臨機応変な対応ができていた。	様々な状況に応じた対応ができるよう、引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
○実動機関の職員をコントローラに入れたことにより、各実動の現実に近い状況把握ができた。	今後も、関係機関と協議し、より実効的な訓練になるよう、対応していく。
○スクリーンやモニターを活用した情報共有について、昨年度の訓練に比べ、状況図が非常に見やすく、状況把握しやすくなった。	実効的な情報共有ができるよう、引き続き、状況図等の改善に努めていく。
●初動対応時は人数が少なく大変なことがわかった。役割分担等を明確にしておいた方が良かった。	OFC 参集要員や役割分担について、引き続き、関係機関と協議し、検討していく。
●要員参集時の受付について、名簿の横に到着時間の欄があると便利だと感じた。	関係機関と協議し、様式の改善等について検討する。
●参集した要員はネームプレートに名刺を入れて活動したが、名前が小さく見にくかった。	関係機関と協議し、今後の対応を検討する。
●参集要員が少ないうちは業務を兼ねて活動せざるをえず、その後、要員が参集しても業務が多忙で引継ぎが難しかった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていくとともに、実効的な情報共有ができるよう、途中から参加する要員に対する情報共有方法を検討していく。
●放射線班の班員について、道庁から参集する要員以外に、もっと早く OFC に参集できる要員を配置すべき。	OFC 参集要員や役割分担について、引き続き、今後、関係機関と協議し、検討していく。
●OFC に道警の要員が参集するまでの間、OFC 内に警察情報が共有されていなかった。	OFC 参集要員や役割分担について、引き続き、今後、関係機関と協議し、検討していく。

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
●各要員の部署や機関の役割を把握できていなかったため、班員相互の連携が不十分だった。事前に機能班内の役割を決めておけば、混乱することはなくなるのではないかな。	OFC 参集要員は、事前に登録されているので、引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●途中から参集する要員に対する情報共有が不足しており、スムーズに機能班活動に入れない要員が散見された。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていくとともに、実効的な情報共有ができるよう、途中から参加する要員に対する情報共有方法を検討していく。
●町村連絡員が不在の場合、誰がその任務を担うのか整理してほしい。	連絡員が不在の場合は、原則、住民安全班に参集する町村からの派遣要員が、その任務を担うこととなる。
●役場からの情報などたくさんの情報が送られてくるので、フォルダ分けするなど整理の方法を検討すべきと感じた。	実効的な情報共有ができるよう、関係機関と調整し、検討するとともに、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●文房具類が足りない機能班があったので、補充しておくべきだと感じた。	OFC の活動に支障がないよう、適切に対応する。
●テレビで情報収集できる体制が必要。	関係機関と協議し、対応を検討する。
●住民安全班と実動対処班が連携して対応する状況が少なかった。	より実効的な訓練になるよう、意思決定訓練における状況付与等の充実について検討していく。
●総括班の活動が会議の準備に終始してしまっていたので、他の活動も実施できるとさらに良かった。	より実効的な訓練になるよう、今後の訓練等において対応を検討する。
●会議資料の作成に多大な時間を要するので、事前に会議資料のひな形等を用意しておくべきではないか。なお、会議資料のひな形はできるだけ枚数を抑え、できる限り同じ体裁とすべき。	関係機関と協議し、会議資料のひな形を準備するなど、対応を検討していく。
●会議の発言について、漏れなく正確に伝えたいのはわかるが、共有すべきことを的確に伝えるという意識とすべきである。	研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。
●会議の資料について、OFC 各モニターでも映してほしい。	より実効的な訓練になるよう、今後の訓練等において対応を検討する。

### (3) 災害対策本部等設置運営訓練に関すること

課題・指摘 (●)・良好事項 (○)	対応 (方向性)・助長策
●原子力災害時と一般災害時ともに要員となっているため、複合災害時の対応を検討する必要がある。	複合災害時の対応について、各関係機関において事前に対応を検討しておく。
●自治体の災対本部の状況を OFC (道現地本部や町村副首長や連絡員など) に情報共有する仕組みが必要だと感じた。	各機関の情報共有も含め、原子力災害合同対策協議が設置されており、引き続き研修会や訓練等を通じて、各要員の理解を深めていく。
●自治体でも OFC 内の対応状況を把握出来た方がよいので、OFC で行われる会議については、TV 会議で傍聴できるようにしてほしい。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。
●ブラインド訓練の場合、自治体側でも状況把握、内部検討の時間が必要となるため、それらの時間も考慮した訓練スケジュールとなっているとありがたい。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●OFCと道庁が状況確認等を行うにあたって、現在はOFCの道現地本部を経由して行うことを基本としているが、当該業務を担うには、道現地本部の要員が不足している。	道現地本部への参集要員や役割分担について、引き続き、関係機関と協議し、検討していく。
●道現地本部が活動をするにあたり、コピー機やホワイトボードなどの備品が必要と感じた。	道現地本部の機能に合わせて備品についても検討していく。

#### （４）緊急時通信連絡訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●一部の町村からOFCに送付するFAXが届いていなかった（後日、ERCに送付されていたことが判明した。）。	FAX送付前の宛先確認や必要に応じて着信確認を行うよう周知する。
●パスワード付きのメールが送付されたが、パスワードの送付が遅れたため、速やかな内容の把握ができなかった。	指摘を踏まえ、適切に対応する。
●通信連絡訓練は毎月実施していることから、スムーズに対応出来た。今後は、毎月の通信連絡訓練の中でも複合災害を想定した通信連絡訓練等を実施しても良いのではないかと。	毎月実施している通信連絡訓練について、より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。

#### （５）緊急時環境放射線モニタリング訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○警戒事態で事業者の要員が参集しており、事業者の情報を素早く共有できるメリットがあった。	引き続き、実効的な体制となるよう、関係機関と協議し、対応を検討する。
●参集が少ない段階での対応方法について、簡素化するなどの検討が必要と感じた。	引き続き、関係機関と協議し、対応を検討していく。
●EMCからOFCや関係機関にスムーズに情報共有できるようにしてほしい。	効率的な情報共有ができるよう、関係機関と協議し、検討する。
●モニタリングの定時報の取りまとめに約30分要することがわかった。	引き続き、研修会や訓練等を通じて、各要員の対応力の向上を図り、できる限り時間短縮に努める。
●町村の参集確認をする時間が遅れてしまった。	マニュアルの改訂を含め、対応を検討していく。

#### （６）広報訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
OOFCで実施した模擬記者会見の際、各班の担当者を同席させたことにより、最新状況等の説明が可能となったので良かった。	今回の取組を参考に、より実効的な会見になるよう、関係機関と協議し、今後の対応を検討していく。
●OFCプレスルームにパソコンとプロジェクターのケーブルを備えてほしい。	今後、関係機関と協議し、対応を検討していく。

## (7) その他訓練に関すること

課題・指摘(●)・良好事項(○)	対応(方向性)・助長策
○昨年度の訓練の際に避難退域時検査のゲート型モニターによる車両の指定箇所検査において生じた不具合(ケーブルカバーが滑りずれる不具合)について、防止策を試行し、問題がないことを確認した。	今回の防止策をゲート型モニターによる車両検査マニュアルに反映する。

### ◆平成31年度訓練に向けた検討項目◆

- **意思決定訓練(○FC、災害対策本部など)の充実**
  - ・ 事態の推移に応じた防護措置の実施方針の作成手順の確認
  - ・ ブラインド方式による○FC機能班の対応能力の向上
  - ・ よりの確な状況付与による意思決定訓練の充実
  
- **EAL、OILに基づく防護措置に係る訓練の充実**
  - ・ 自然災害との複合災害を想定した住民・要配慮者の避難訓練の継続
  - ・ さまざまな状況による孤立集落を想定した対応力の向上
  - ・ 小中学校の積極的な参加を促すなど訓練参加の促進
  - ・ 外国人観光客等の円滑な避難誘導
  - ・ 原子力防災に関する住民理解の促進に向けた取組の強化
  
- **原子力災害医療活動訓練の充実**
  - ・ 避難退域時検査場所の円滑な運営
  - ・ 安定ヨウ素剤の速やかな配布
  - ・ 医療機関の連携強化
  
- **緊急時環境放射線モニタリング活動の充実**
  - ・ EMCを拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携